

御国の称賛を受ける者！！ 神殿を守る城壁の再建

「素直に生きる道 HS に満たされる」ネヘミヤ9:17~21 エステル1:9~13

■ 城壁の再建

ネヘミヤが再建したのは、神殿ではなく「城壁」でした。なぜ城壁が大事だったのかというと、城壁が壊れた状態では、敵が押し寄せてくると、内の神殿はすぐに壊されてしまうからです。だからネヘミヤは城壁を再建したいと思いました。神殿とは、私たちが心静めて神様と向き合う大事な場所です。城壁が再建されると、神殿での礼拝は妨げられなくなります。批判を受けたり民族内で敵対が起り始めたとき、ネヘミヤは神の御前に出て、正しい判断を仰ぎ、影響を受けませんでした。ネヘミヤの中に堅固な城壁があったので、城壁外の影響を受けず、神殿の礼拝が守られたからです。

ペンテコステは、私たちの中にあるさまざまな感情を一旦置いて、神様はどう考えているのかを考える日です。ペテロは、漁師の劣等感からいつも誰が一番上かを考え大失敗もよくしたが、素直に神を求める決断をして、イエスと約束したことを成し遂げる新しい生き方に180度変わりました。後世の人々の土台にされるような人になりました。

■ 素直に生きる道

私たちの中に神殿がなかったので、まず神殿をどう建てあげるかをずっと学んできました。城壁を建て直しながら、神殿（あなたの礼拝の場所）を建て直すためにはどうするのでしょうか。

日本人は頑固です。経済的な平穏を得ると人は頑固になる、と社会統計学的に出ています。先進国の人は物質的に豊かで生きて行ってしまうので、素直になれないのです。そんな中で、希望を与えられ素直になって、イエスの愛を流す決意をもった人たちが教会に集まっています。あなたはどんな思いで、仕事をしていますか？最近の人たちは、いくら給料をもらえるかありきで仕事をし、定時に退勤し、その時に誰かがしなければならぬ仕事があっても自分はしないで帰るようです。仕事とは仕えることです。動画のゴミ収集車のお兄さんは、ゴミ収集の仕事をとっても楽しんでしています。神から与えられた仕事は、本来このようにするものです。

あなたはどんな思いで生活をしていますか？動画では、電車内で弱いおばあさんに母親は席を譲らず、譲ろうとした女の子を制しましたが、女の子はそれでも席を譲りました。文句ばかり言って権利を主張し、助け合えないような生き方をしていますか？そんな生き方で、本当に幸せになれるのでしょうか？

■ HS に満たされる

王妃ワシュティは酒酔いの王の理不尽な命令を、夫婦で話し合うことなく拒む方法を取りました。王は怒りの感情に任せて、法令を作り王妃の位から退けました。その後エステルが王妃に選ばれました。エステルと叔父のモルデカイは、王やハマンの理不尽な命令の中で、正しく祈り正しいことを行い話しました。そして、ユダヤ民族の危機が救われる奇跡が起こりました。命を失われるような出来事が城外で起こり、敵が来ても、城壁があったので、負けることなく神殿は守られたのです。礼拝の場所である神殿が守られたので、影響を受けず礼拝が妨げられなかったのです。

このように、私たちが影響を受けない存在になることが、ペンテコステの日起こるHS(聖霊)の恵みです。愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制、腰に締めた真理の帯、の城壁が得られ、礼拝が保たれます。聖霊と共にいると、まちがった判断を起こしません。クリスチャンが長い間、イエスキリストの愛をもった交わりを回復できていないなら、城壁が壊れていて敵が押し寄せるまま感情的に怒り、勿体ない状態になっているのです。

■ 箴言の訓戒 (19:20~25)

忠告を聞き、訓戒を受け入れれば、知恵を得る。人の心には多くの計画があるが、主のはかりごとだけがなる。人の望むものは、人の変わらぬ愛である。貧しい人は、まやかしの言うものにまさる。主を恐れるなら、いのちに至り、満ち足りて住み、わざわいに会わない。なまけ者は手を皿に差し入れても、それを口に持って行こうとしない。あざける者を打てば、わきまのない者は利口になる。怠け者の人生になっていないでしょうか？ハングリーがなく豊か過ぎるために、拒んでも平気な状態になって、人間関係を壊していいのでしょうか？

■ 慈しめと恵が追いかけてくる人生

今を正しく生きる人生。おばあさんに席を譲らないのは正しくありません。また、自分を大事にしない、自分をないがしろにする、自分の欲に生きる、というのは、自分を大事にしない行動です。あなたが人に愛を流す行動は、自分を大事にする行動です。だから相手を馬鹿にしたり、言いなりになるのもダメです。1対1で向き合うことも、神のはかりごとです。まちがった者に同調せず、あざける者に叱咤を与え、正しく訓戒することは、今を生きることです。

■ 今を生きる→種をまく人 恵の実がなる

今を生きることは、十分の一の種蒔きなので、楽ではありません。実がなるために、今は食べず種として取っておき、蒔くからです。

■ 素直と王道を進む

素直な愛は届きます。素直に生きることは王道です。ケネディ大統領は、いつも息子を会議に同席させて、息子が質問したり話すのをゆるされていました。本来の政治がどういふものか見せて教えていました。神(父)が自分にしてくれたことを息子にしたのです。王道とは、神の子どもであると私が知っているときにできる行為です。また、神の子であること知っているから王道を選べるのです。王妃ワシュティは王道を選びませんでした。王からの理不尽な要求に対して、苦しい思いを伝えればよいのに、拒み、王妃の座を失いました。豊かな時代は、自分で生活していけるから、向き合わずに勝手に相手との距離を置いてしまいます。素直に話し合しましょう。王の子として、話すのをゆるされていますから。

■ 屈折した対応をしない

子どもがお菓子を買ってほしい、学校に行きたくないが大暴れすることがあります。親は子を黙らせるためにお菓子を買ってしまおうような、屈折した対応をしないといけません。この方法を取るも、子どもはいつまでも大暴れする方法で自分の要求を通そうとする正しくない方法を取り続けることになります。大暴れすると人生もその日の計画もうまくいかないので、やってはいけない方法です。嫌なことは、暴れずに伝えればよいのです。

■ うなじが強い

人が人として生きるのに、神とも人とも向き合える環境を捨ててはなりません。自分の考えに固執して、人の意見を聞かない、素直じゃない人を、うなじがこわい人といひます。神の前にかわいく素直であるべきです。

■ HS に満たされる

心がほつれていて、素直でなくて、祈ることができず、何か起こるたびに全部奪われ、感情的になって大きなものを捨ててしまっているなら、非常に勿体ないことです。

ジョンフランクリンは、北極の先遣隊で他隊がマイナス20度の中で30分間だけ寝ようとしたのを必死に阻止しました。それをするなら死んでしまおうと判断したからです。批判されても真剣に伝えた結果、頑なに拒んだ一人以外は助かりました。クリスチャンはこうあるべきです。

ペンテコステは、命懸けの愛のもとに与えられた恵みです。十字架の愛を知り、神殿が回復されてきているなら、城壁を堅固にする聖霊の力を求めていきましょう。

■ さいごに

心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。悲しむものは幸いです。その人は慰められるからです。あなたも屈折した方法で今を生きてませんか？あなたのやり方は本当に正しいですか？

仕事は、文句を言って怒って同じ事を繰り返すこともできるし、ゴミ収集車のお兄さんのように喜んで楽しむこともできます。権利を主張し、弱った人に席を譲らないことを選ぶこともできます。ペンテコステは、素直に聖霊を求める人に与えられる恵みです。聖霊を欺く罪はゆるされません。楽しく仕事しよう、席を譲ろう、という決断が必要です。愛せない時に愛そうと願う、ふてくされるときに考え方を変えよう、礼拝しよう、とすることが大事です。しかし自分の力ではできないので、聖霊に助けてもらうのです。電動アシスト自転車のように、あなたが決断してペダルを踏んだ瞬間から、聖霊がアシストして走り出せます。電動アシスト聖霊です。

城壁では天の万軍の軍隊が守っています。祈ること、向きを変えること、感情的になるのではなく、静まって賛美することがどれほど大事なのかご存知ですか？敵がたくさんいると思ったとき、神殿の場所を作る必要があります。相手を負かす作戦を考えるのではなく、愛か？喜んでいるか？今平安か？寛容か？親切か？善意か？誠実か？柔和か？自制しているか？と自分と戦うのです。しかし私たちはできないので、「聖霊様、空っぽなので満たしてください。ごうで、アシストしてください」と言うのです。

傷つけるのも、自己中心にまちがったことをするのも、屈折した行動をとるのも、拒否するのも簡単です。夫に理不尽な命令をされたとき、妻は距離を置いて拒否するのはなく、夫を呼んで話し合うべきです。でも言えないので祈るのです。北風と太陽の太陽に、相手を変えようとするのではなくあなたが太陽になってください。あなたは王の子なので、王道を行ってください。どんな状況でも礼拝できるのです。素直な方法で話し合う方法を選んでください。

(要約者:高橋 奈津江)

(2024年5月19日)